

石川地方では以前、郡内の5町村がそれぞれJAと組織して、地域農業の振興を行っていた。

JAあぶくま石川が中心となり1996年、石川郡の5町村が一体化した「石川地方農業振興協議会」を新たに設立し、石川地方の農業振興を推進している。

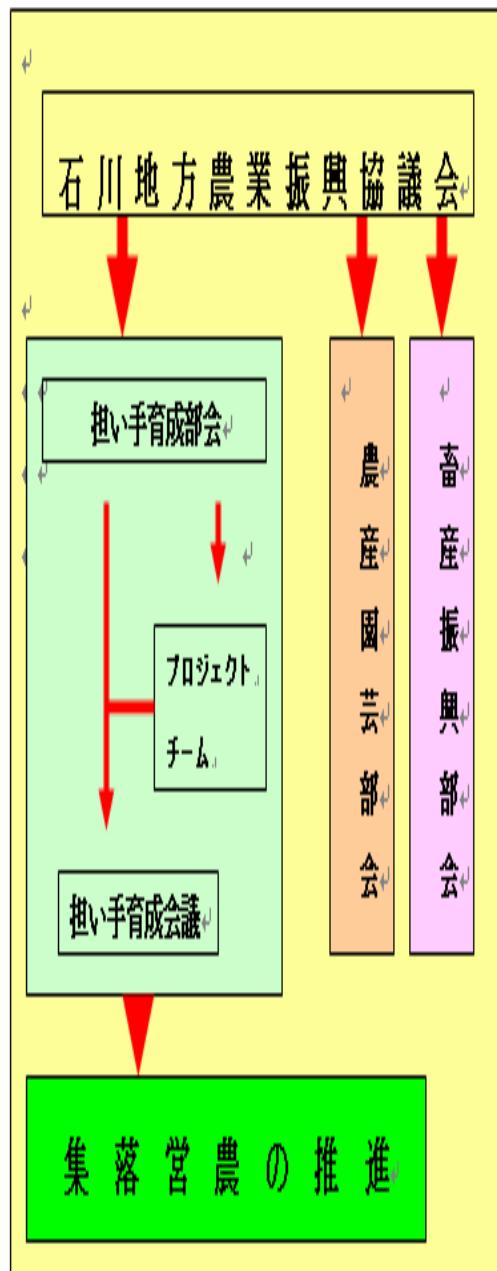
昨年、石川地方農業振興計画「第2期アグリプラン21」を樹立。地域農業の課題として、①担い手育成・確保②作物選択③マーケティング④豊富な農村資源の活かし方、の4つを掲げた。従来からの「農産園芸部会」と「畜産振興部会」に加え、新たに集落営農や担い手育成を推進する「担い手育成部会」を立ちあげた。

石川地方の「担い手育成部会」として、JAあぶくま石川をはじめ各町村や須賀川普及所、農業共済組合、農業委員会、モデル集落リーダー、重点集落リーダー、JA全農福島の実務担当者らで構成。本年5月、JA全農福島のOBが専任マネージャーとして加わり、集落営農や担い手育成に向けた課題解決のため、集中的に取り組んでいる。

また、JAあぶくま石川は昨年3月、全職員を集落担当者として集落ごとに配置。様々な話し合いや相談ができる環境が整い

はじめていることから、今後、集落営農の推進に結びつくものと期待されている。

[集落営農支援体制]



急げ、集落営農！！

田村市堀越地区の取組み

担い手組織の連携

田村市の堀越地区では2001年、経営体育成基盤整備事業の実施を契機に、堀越営農組合と堀越生産組合が発足した。翌年度に堀越畜産組合、03年度には農産工房ほりこしを設立し、担い手への農地集積や耕畜連携など、の4組織が連携して体制を確立している。

堀越生産組合は、①土地利用調整システム化で担い手への農地集積や団地化による集団転作に取り組み②転作作物として、直は栽培によるホールクロップサイレージ用稻、大豆、牧草などの栽培定着と耕畜連携の取り組み③営農システムの実現に向け、関連組織との連携に創意工夫をこらした取り組みを展開している。

これらの成果が評価され、堀越営農組合（代表者＝三輪昭夫氏）が今年度の東北農政局土地改良事業営農推進功労者として、「受益農家集団の部」で東北農政局長賞を受賞した。

現在、特定農業団体として、来年度からの品目横断的経営安定対策に対応するため、水稻も含めた一元経理の実施に向け、JAや普及所などの関係機関が支援をしている。今後、水田農業を軸とした経営基盤の強化

と畑地の遊休農地化解消を含め、転作と畑作による大豆の生産を一層拡大するため、機械施設の整備に取り組む。

堀越生産組合の体制図

